



近一だより

旭川市立近文第一小学校
令和4年度 第9号
令和4年11月30日発行

大人の関わり方で子どもは変わる

校長 鈴木康弘

「やられたらやり返す。倍返しだ！」でおなじみの「半沢直樹」以来、池井戸潤の小説が好きで、今は「ハヤブサ消防団」を少しずつつかじっているところです。彼の代表作「下町ロケット」を読んでいると、私は、植松電機の植松努氏を思い出します。植松氏は小さい工場でロケットの開発に取り組んでいて、講演活動も盛んに行っています。新町小学校勤務の頃には、隔年で講演会を開催し、お話を伺っていました。その頃の記録の中から特に印象深いものをあげてみたいと思います。



- 大変な状態を嫌だと言っているけど何も変わらない。「やらない理由」「変化しない理由」を一生懸命という言葉で正当化してはいけない。今の世の中は、「安い・早い」の消費者迎合の世の中になってしまった。「より良く」を求めない社会が、日本をだめにしてしまっている。だから「自分なんて努力しても、どうせ無理」という日本人が増えている。
- 人生の価値は、人生を使って得た能力である。自分の人生を自分を高めることに投資する。私は、子どもの頃、祖母に「お金があったら本を買いなさい。本には、書いた人の知恵と経験が詰まっている。」と言われた。だから、私は、小学生の時、「飛行機はなぜ飛ぶのか」という疑問を解消するために、流体力学の事典を読んだ。疑問を解消するために、難しい漢字も読めるようになった。
- 父親に、プラモデルを買ってとお願いすると、「あんな簡単なものはだめだ。男だったら鉄で作れ。」と言われ、父の工場にあった溶接機械を小学生の時から使えるようになってしまった。
- 「意味なくね!」「わけわかんない!」というのが若者の流行語になっている。考えることをしなくなり、誰かに任せてしまう社会は恐ろしい。意味も理由も自分で考えるようにさせたい。
- 私は、将来ロケットの開発技術者になりたいと思っていた。その夢を口にすると、「ロケットの開発をするには、東京大学に入らなければできない。芦別には東京大学に入った人はいない。だから、芦別に生まれた段階で無理!」と先生に言われた。でも、私は北見工業大学を出て、ロケットを開発している。私の会社には、工業高校中退の者もいる。憶測による進路評論（進路相談ではない）には負けてはならない。本当の進路相談は「今できる範囲から選ぶのではなく、やってみたいことをどうやったらできるか共に考えることである。やり始めないと未来には到達できない。だから、子どもたちには、間違えることは恥ずかしいことではない。」ということを知りたい。また、教えてもらわないとできないのではなく、自ら解決する問題解決能力を育ててほしい。
- 「できるわけない」「やってもむだ」「どうせ無理」「わたしなんか」という気持ちは、その子自身で自分の可能性をなくしている。人はやったことが無いことや知らないことにしか出会わない。やったことがないことが、やれるようになったら自信になる。どうせ無理という言葉は努力を否定している。夢がある人間はくじけない。大人は子どもに「どうせ無理」と言わせない禁止条例をつくるべきだ。私は、子どもの頃から母に「思うは招く」と言われて育ってきた。「どうせ無理」という気持ちから「だったらこうしてみたら」と考えられる子どもを育てたい。

(右上に続く)

植松氏の講演の中には、祖父母や両親の話がよく出てきます。子どものころの体験が、今の植松氏をつくりだしているのだと思います。混迷の時代だからこそ、大人が確固たる信念をもち、子どもに関わっていかなければならないことを再認識する機会であったと改めて思いました。



5日 (月)	保護者懇談 (～12日), 移動原爆展 (～9日)
9日 (金)	租税教室 (6年生)
13日 (火)	チャレンジテスト実施日
14日 (水)	クラブ
20日 (火)	児童集会
23日 (金)	終業式
24日 (土)	冬季休業 (～1月12日)

12月の生活目標
安全に気をつけて
生活しよう

楽しかった学年PTA行事②

今月も、学年行事が行われました。紹介します。

1年生は、体育館で「ミニ運動会」を行いました。親子で楽しめる競技が多く、たくさん笑顔が見られました。

4年生は、タブレットを使って、学校全体を探検しました。いろいろな場所を巡って、学校の秘密をたくさん見付けていました。



卒業制作始まる！「陶芸教室」

6年生は、毎年、卒業制作として陶芸を行っています。今年も喜朋窯の松本喜美子先生をお迎えして、皿作りや茶碗作りなどに挑戦しました。短い時間ではありましたが、どの子も熱心に取り組むことができました。出来上がりは3学期。どんな作品になるか楽しみですね！



廊下を散歩してみると…

各教室の様子を見に行くことの多い私(教頭)。そんな時の楽しみの一つが、廊下に並んだ作品を見ること。たくさんの作品を一度に見ることで、一人一人の作品の特徴をより感じることができます。今回は、1・3・5年生の作品を紹介します！



1年生「ひらひらゆれて」



3年生「空きようきのへんしん」



5年生「糸のこすいすい」

栄養教諭による「食の指導」が行われました！

子どもたちの大好きな給食。そのメニューを考えている東栄養教諭による「食の授業」が11月中旬に行われました。普段は永山小学校に勤務しているので、授業の前には各教室を訪問して、子どもに話しかけたり、食べる様子を確認したりして、近一つ子と心の距離を縮めていました。

授業は、学年の発達段階に合わせて、栄養や食事のルール、給食作りの工夫や苦労について学べる内容となっていました。その中で伝わってくるのが「たくさん食べて健やかに成長してほしい！」という願い。どのメニューも、子どもたちの健康が考えられていて、成長期の子どもたちを応援する気持ちがあふれていました。子どもたちは、普段と違う先生の授業にも意欲をもって、たくさん学んでいました。

